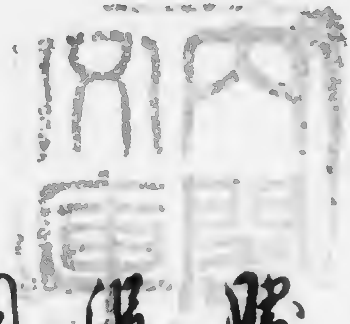


版室いひ

次市多源昌喜とら内藏助昌則まさのり多修
甲斐寛永之生壽 逸見冠者清光よしみ之十男
共市義成甲斐國八代郡法利やうりの庄
任りるより法利を稱し其末孫共市
義宗よしみ之男越前守義昌よしみより同國
版室の郷の後より一の家稱を版室と
あ〜〜む家傳いも昌た之祖父の昌則



ちりりむ部、補昌忠より信玄及び
 勝頼より信玄寛永天正十年武田家
 没落の後武藏國八王子に誓居し
 同十七年六月二十一年六十一歳で死し
 法名梅鑑家昌忠も武田勝頼の
 片子寛永天正十年没落の後諸士
 同く秋葉山に誓居し誓詞を
 東照宮にたてまつりしは八月舊暦

甲斐國版室法利山に鼻輪等の内は
 なるに千七歳ある文の地をいふまに
 涉朱印をわさるるに同國都留郡
 大竹の郷にいて戦ひ諸も先から
 首とらてまひしに十月其功を
 賞せしむむねも本丸助廣正より書状
 を送り同十九年舊暦よりし
 武藏國多摩郡下総國印旛二郡の内は

なりし米地二百石をたまふ後大番と

なり大坂あ度の湯陣は淀川にそまわり

家元和九年七月十日死す寛永六十二歳

法名を淨英とす其子昌勝ハ八市

名清家清按てその子寛永清の昌勝は長男を

とす其系昌其の金五郎昌恒の子二九市来りてその子昌勝と

昌勝一と生る寛永

台徳院殿一はつとありまつり大番と

昌勝家清按てその子八市は昌勝の子なり其昌勝の子

昌勝と生る山縣元亨と甲斐國志とありて昌勝の生る

大猷院殿を拜しありまつり寛永清

八市は昌其の付安永六年罪

市市左衛門昌成昌成は八市を昌成とす

なり昌成一と生る寛永清とありて二市を昌成と

し元和七年九月めされし小十入り

列し後康米百俵をたまふ寛永九年